

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2775004100		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホームプラティア花園		
所在地	大阪府東大阪市稲葉2丁目1-13 (電話) 072-968-6655		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-2号		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価結果確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】 (20年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年6月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	人	常勤	人, 非常勤
		人,	常勤換算
		人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	36,000円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,260円	

(4) 利用者の概要 (9月17日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0	要介護2	7		
要介護3	5	要介護4	5		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均	85.2歳	最低	94歳	最高
					79歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三田クリニック・高砂クリニック・なかみどり歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畑を挟んで幹線道路に面する住宅街の中にあり利便性がよく、家族や地域住民が来訪しやすい環境にあるホームである。日ごろから近隣住民との交流を重視し、ホームの行事への招待・ボランティアの受け入れなど積極的に取り組み、ホームから地域に働きかけ地域密着型サービスの特徴を活かした取り組みがなされている。医療連携体制をいかにして医療処置を受けながらもホームで生活の継続ができるように支援しており、入院しても早期にホームでの生活が再開できるように働きかけを行い利用者・家族が安心して生活できるよう配慮できている。緊急時の対応が整備され重度化・看取りの経験もあり利用者と家族に大きな安心を与えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価は、フロアごとに回覧しフロア会議で報告し、改善点について話し合い、運営推進会議の定期的開催や介護計画の見直しの機会を増やすなど改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	各フロアリーダーに自己評価項目についての意見を聴取し管理者が自己評価票を作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	地域包括支援センター職員・ご家族・管理者・フロアリーダー、介護職員の参加者により、管理者交代の5月からは、概ね2ヶ月に1回実施している。ご利用者・ホームの状態や行事の報告をすると共に、事故やヒヤリハットの検討・評価結果報告・避難訓練の報告などについて意見交換することにより、サービスの質の向上に繋げている。地域住民の参加が困難な点が課題であると考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ご家族面会時には、職員から話かけ意見を聞く姿勢を持ち、意見・苦情を話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見・要望・苦情については、フロアリーダーからセンター長に報告し報告書を作成すると共に、フロア会議で話し合い改善していくように取り組んでいる。家族会・運営推進会議も、率直に意見交換できる機会として活用し、サービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	日ごろから近隣住民との交流を重視し、ホームの行事への招待・ボランティアの受け入れなど積極的に取り組み、畑から季節の野菜の差し入れを受けたりもしている。保育園の園児の来訪を受けたり、小学校の行事に招待されたり、地域のお祭り・社会福祉協議会などが主催する行事に参加するなど、ホームから地域に働きかけて参加する姿勢を重視している。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 森 洋子 / 同行調査員氏名 山本 明美

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、「ご利用者が主人公」「尊厳を保つ」「いきいきとした生活」「認知症の進行の防止」「地域社会と共に」を基本理念として掲げている。基本理念に「家庭的な環境」は明言していないが、「家庭的な環境」はグループホームの基本であると考え、常に利用者本位を念頭において自立支援を行っている。		基本理念の見直しの際、「家庭的な環境」についての文言を盛り込むことを検討されることを期待する。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修で社長が理念の意味と重要性を話し、周知徹底を図っている。各フロアーに掲示し、フロアー会議で唱和することにより、常に理念に立ち返り、理念に基づいた支援ができるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日ごろから近隣住民との交流を重視し、ホームの行事への招待・ボランティアの受け入れなど積極的に取り組み、畑から季節の野菜の差し入れを受けたりもしている。保育園の園児の来訪を受けたり、小学校の行事に招待されたり、地域のお祭り・社会福祉協議会などが主催する行事に参加するなど、ホームから地域に働きかけて参加する姿勢を重視している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回評価は、フロアごとに回覧しフロア会議で報告し、改善点について話し合った。今回の受審については、各フロアリーダーに聴取し管理者が自己評価票を作成した。</p>		<p>管理者が交代しても、以前の評価結果の把握と改善計画の継続が望まれる。自己評価については職員全員で取り組み、振り返り・見直しを行うことによりサービスの質の向上に活用することを期待する。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括支援センター職員・ご家族・管理者・フロアリーダー、介護職員の参加者により、管理者交代の5月からは、概ね2ヶ月に1回実施している。ご利用者・ホームの状態や行事の報告をすると共に、事故やヒヤリハットの検討・評価結果報告・避難訓練の報告などについて意見交換することにより、サービスの質の向上に繋げている。地域住民の参加が困難な点が課題であると考えている。</p>		<p>地域に開かれたサービスとして質の確保を図るため、地域住民の参加が望まれる。自治会長・民生委員などへの働きかけを継続されることを期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回の地域ケア会議・社会福祉協議会主催の勉強会に、管理者が参加している。地域包括支援センターとは日頃から密に連絡を取り、制度について情報を収集したり、ご利用者の入院先の相談をするなどしている。また、地域包括センターからも空き状況の確認や入居の相談を受けるなど、日常的に交流がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人全体の季刊誌であるプラティア通信を3ヶ月毎に発送し、法人・ホームの行事や取り組みなどについて報告している。また、家族便りを2ヶ月毎に各居室担当者が作成し、ご利用者一人ひとりについて個別の報告を行っている。ご家族の面会時にはフロアー長を中心に日常生活・身体状況を、行事の写真などを見ながら伝えている。その他、状況に変化があれば、電話で迅速に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族面会時には、職員から話かけ意見を聞く姿勢を持ち、意見・苦情を話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見・要望・苦情については、フロアーリーダーからセンター長に報告し報告書を作成すると共に、フロアー会議で話し合い改善していくように取り組んでいる。家族会・運営推進会議も、率直に意見交換できる機会として活用し、サービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。</p>		<p>ご家族は、意見・要望・苦情を言い出し難いということを理解し、アンケートを定期的に行うなど、満遍なくご利用者・ご家族の満足度を把握し、職員の気づきの機会となるような取り組みを期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員の異動によるご利用者へのダメージを考慮して、サービスの質の向上を図るための異動は検討して行っているが、それ以外の異動は最小限にしている。、管理者・フロアー長が、職員とのコミュニケーションを十分にとり人間関係を築いた上で指導助言していく、会議の場だけでなく日常から仕事に対しての意識について話をし職員のモチベーション維持に努めるなど、職員の離職を防ぐための取り組みをしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修については、法人全体で行い、基本理念・待遇・認知症に関する知識などについて社長が講義している。現場での介護技術については、経験・力量に応じて1ヶ月程度、フロアーリーダーがOJTを行っている。現任研修については、内部研修はフロアー会議（月1回）の時間内で短時間勉強会を持つにとどまっている。外部研修は案内を掲示し情報提供している。内部・外部共に、計画的に研修し、職員のスキルアップを図る必要性を感じている。</p>		<p>必要な研修項目を網羅した年間計画に基づいて、定期的・計画的に研修会を実施し、職員の質の確保・向上を図ることが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社会福祉事業者対象の各連絡会に、管理者が積極的に出席し、同業者との交流をし、内容については職員にも伝えている。グループホームの連絡会「やまびこ会」にも出席し、懇親会・勉強会の機会に交流を持ち、サービスの質の向上に活かしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご家族と面談し、ご利用者の状態を聴取し、グループホームへの適正を確認した上で、申し込みにつなげている。ホームの見学により、ご利用者・ご家族に、ホーム・職員の雰囲気を感じてもらい、同建物内のデイサービスの利用によりホームに馴染める機会を作るなど、ご利用者の状況にあわせてスムーズな利用に至るよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の意向・力量を考慮しながら、家事を中心に協働作業を行っている。特に料理・裁縫などでは、ご利用者から学ぶことも多く、ご利用者の生活の張り合いにもなっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで思いや意向を聞き取り把握するようにしている。入居後は、居室担当職員を中心に、日々のコミュニケーションの中で職員が把握した思いや意向を計画作成者に伝え、計画作成に反映できるようにしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時にご家族の希望を聴取し、居室担当の職員の意見を取り入れながら、計画作成者が原案を作成し、家族に確認・同意を得ている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々関わる職員の気づきや会話の中から聞き取れた利用者の要望や希望をセンター方式を活用し3ヶ月に1回の定期的な見直しを行う他、毎月のケース会議で変化の兆しに予防的に対応していくための計画見直しの実施を行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制をいかして医療処置を受けながらもホームで生活の継続ができるように支援している。また利用者にとって家であるとのホームの考えもあり入院しても早期にホームでの生活が再開できるように病院への面会で馴染みの関係を継続し、医療機関へ早期退院に向けての働きかけを行い利用者・家族が安心して生活できるよう配慮している。利用者個々の希望や要望による個別外出支援を行なうなど柔軟な対応をしている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関である内科・歯科・認知症専門医の定期的な往診があるが、利用開始前のかかりつけ医の希望があれば受診支援している。連携医とは24時間連絡が取れる体制を整えており往診時以外にも随時相談できる体制を整えている。受診時は、健康管理日誌で情報提供し、医師・薬剤師との連携を図れるように取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針が作成されており、過去に看取りを行った経験もある。職員の看取りに対する心構えは個々に重度化見取りに対しての話し合いを随時行うことにより関係者全体で取り組んでいく体制作りを行っている。</p>		<p>今後も利用者・家族が安心してホームでの生活が送れるよう、重度化や見取りに対しての研修を計画的に実施して行くことを期待する。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に誓約書で守秘義務について理解を深めるようにしている。プライバシー保護や尊厳について日々のケアの中で話しをするだけでなく、フロアの職員の目に付く所に言葉使いや態度など細かな注意事項について掲示し周知徹底を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活のペースを尊重しその日の体調や気分に合わせて生活リズムで過せるように支援している。アセスメント生活歴や趣味などを把握し利用者一人ひとりが買い物や散歩、土いじりなど思い思いに過ごせるように支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の機能や希望に合わせ献立、買物、調理、盛り付けなどその日の体調や気分で参加してもらえるように支援している。職員と共に買い物や調理、同じテーブルで一緒に食事をする事で食事が楽しいものになるように取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や希望に合わせて好きな時間に入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者に対しても最低週2回は入浴してもらえよう身体的負担や羞恥心などに配慮しながらくつろいで入浴してもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントの情報から習慣や得意なことを把握し、水遣り、買い物、洗濯たたみなど利用者個々の楽しみや役割のある暮らしが送れるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り外出を多く出来るようにしており、外へ出掛けられない方に対しても気分転換に出掛けられるように働きかけている。初詣や節分、花見など季節の外出を行い外出を利用者と職員にとっての気分転換やストレス発散などの機会として外出を生かしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1F玄関は防犯や利用者の安全性を考え施錠しているが、フロアーは施錠しておらずエレベーターや階段で入居者はフロアー間を自由に移動しており閉塞感を感じられない。職員は、利用者の外出の希望や意向を表情や行動から感じ取り外出同行できるように取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回実施し、火災報知機・消火器の定期検査や避難経路の確認を行っている。		職員と利用者が一緒に年間を通じた訓練を繰り返すことが望ましい。運営推進会議を利用して災害時に近隣の方とどのように連携していくか話し合いを行っていくことを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックリストを作成し、食事量や水分摂取量を把握している。体重測定を月1回実施し栄養状態の把握に活かしている。毎日記入している献立表で大まかにカロリー計算をおこないバランスの取れた食事提供ができるように配慮している。水分摂取に関しても水分の種類を多く持ちスムーズに摂取ができるように配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔が保たれた共有空間で季節や時間に応じた音や匂いがあり家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせる環境を整えている。利用者の安全性や心身の機能に合わせ椅子や家具の配置を適宜変え、利用者がそれぞれに思い思いに過ごせるように配置している。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらえるように積極的に家族に働きかけ、持ち込んでもらっており利用者個々の趣味や嗜好が感じられる居室空間作りが行われている。		

 は、重点項目。